

国際ボランティア ワークキャンプin ASO

BURNING HEARTS 〜他人事ではなく自分事に〜







2024年8月16日(金)~18日(日)

国立阿蘇青少年交流の家

国際ボランティアワークキャンプ実行委員会



- 02 目的・概要
- 03 未来職道協力者/スケジュール
- 四 開会式/基調講演 第1分科会「教育」
- 55 第2分科会「環境」 第3分科会「医療」
- □□ 第4分科会「多文化共生」 第5分科会「国際協力」
 - 第6分科会「子どもの権利」全体交流会

.....

- 08 未来職道/全体報告会
- 09 クロージング講演、閉会式、阿蘇観光 実行委員長からのメッセージ
- 10 アンケート報告

11











高校生や大学生たちの若い人材の 「生きる力」を育む!

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動などを点検しながら自ら企画、運営を行う国際ボランティアワークキャンプ(以下、「ボラキャン」と記述)を2泊3日で実施しました。このボラキャンは、世界や日本が直面している「紛争」や「飢餓」、「環境」、「人権」など様々な課題について関心を持つ高校生たちが毎年春ごろから学校の垣根を越えて集まり実行委員(executive committee:以下、「EC」と記述)を組織し、夏休みに行う本大会に向けて企画・運営を行い、一般で参加する同世代の高校生たちと自分たちで出来る課題解決の取り組みを作り上げるもので平成18年から開催しています。

19回目となった本年度のボラキャンのテーマを、熱い心を持ってボランティア活動に取り組むきっかけをつかんでもらおうと、「他人事ではなく自分事」としました。

同世代の他の高校生や大学生、留学生、また、諸問題に 取り組む大人たちとの交流を深める場として、とても有意義 な時間になり、次の活動につながってくれたら幸甚です。

(概要)

◆開催日程:

2024年8月16日(金)、17日(土)、18日(日) 2泊3日

◆開催場所:

国立阿蘇青少年交流の家(阿蘇市一の宮町宮地6029-1)

◆参加者:

125人

(高校生、留学生106人、大学生3人、 アドバイザー、サポーター等12人、事務局4人)

◆ 主 催:

国際ボランティアワークキャンプ実行委員会

◆構成団体:

熊本ユネスコ協会、税理士法人近代経営、 株式会社日本リモナイト、一般社団法人ドリーム・ラボ 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

◆共催・協力団体:

独立行政法人国際協力機構(JICA)九州センター 日本ボランティア学習協会

▲ 後 控

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

◆事務局:

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

この事業は令和6年度「子どもゆめ基金」の助成を得て活動しました

Work Camp



〇10団体、個人、順不同

- TEDxKumamoto
- ·JICA海外協力隊(国際協力)
- ・認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本(国際協力)
- ・一般社団法人日本ワーキングホリデー協会(留学)
- ・九州地方環境パートナーシップオフィス(環境)
- •NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと(多文化共生)
- ・日本ボランティア学習協会(ボランティア)
- ・NPO法人東アジア共生文化センター(国際協力)
- ・次期ボラキャンEC募集ブース
- •平和大使活動

〇分科会アドバイザー

第1分科会「教育」 第2分科会「環境」 第3分科会 [医療] 第4分科会「多文化共生」 第5分科会「国際協力」

第6分科会「子どもの権利」

〇講師

興梠 寛(日本ボランティア学習協会代表理事) 西尾 雄志(近畿大学総合社会学部准教授)

〇通訳

ラザフィマナンテナ 仁美(英語)

下川 嵩暉(中国語・英語 ※ボラキャンOB) 前川 福美(中国語 ※ボラキャンOG)

〇大学生サポーター(ボラキャンOG) 工藤 すみれ、石川 明日嘩、中原 布美子

八木 浩光、勝谷 知美、徳淵 健一、マグダレナ ムジゴト

SCHEDULE

1日目 8月16日 (金)

9:30 集合

10:00 出発(熊本市国際交流会館)

11:30 到着(国立阿蘇青少年交流の家)

入所オリエンテーション、昼食 12:00 @講堂

13:15 開会式

基調講演

(興梠 寛氏 日本ボランティア学習協会代表理事)

15:00 分科会活動①

> 第1分科会「教育」 第2分科会「環境」

@第7研修室

@第5研修室 @第1研修室

第3分科会 [医療] 第4分科会「多文化共生」

@中研修室

第5分科会 [国際協力]

第6分科会 「子どもの権利」

@第5研修室 @第1研修室

17:00 夕べの集い

17:30 夕食

19:00 交流会「ソフトバレーボール」

@体育館

21:00 入浴

22:30 就寝

8月17日 (土)

6:30 起床

6:50 クリーンタイム(清掃)

7:15 朝の集い

7:30 朝食

9:00 分科会ワークショップ② @各研修室

12:00 昼食

13:00 分科会ワークショップ③ @各研修室

17:00 夕べの集い

17:30 夕食

19:00 未来職道 @中研修室

21:00 入浴

22:30 就寝

8月18日

6:30 起床

6:50 クリーンタイム (清掃)

7:00 朝の集い

7:30 朝食

9:00 分科会 発表会 @中研修室

11:00 クロージング講演

(西尾 雄志氏 近畿大学総合社会学部准教授)

11:50 閉会

12:00 昼食

13:15 退所

13:30 阿蘇神社観光

14:30

16:00 熊本市国際交流会館到着、解散

松岡 祥仁、坂東 喜子

藤田 逸郎、水上 卓也

辛 教燦、秋寄 歩美

(他、令和5年度平和大使の皆さま)

大和 賢佑、八木 浩光

大住 葉子、竹村 朋子

木下 俊和

岩坂 省吾

勝家 伸男

竹村 朋子

第19期EC

嶌村 理彩

勝家 伸男

木下 俊和

尾上 香織

岩坂 省吾

興梠 宵

「開会式!・基調講演|

報告者 田村陽菜

第19回国際ボランティアワークキャンプは、国立阿蘇青少年交流の家に於いて2泊3日のスケジュールで開催しました。参加者は総勢125人(一般参加者80人、EC26人、アドバイザー、ボラキャンOG,OB、事務局19人)に参加して頂いたことに心から感謝します。参加者の中にはモンゴルの留学生や台湾インターン生、中国やフィリピンにルーツを持つ高校生、大学生にも参加して頂き、国境を越えて交流し、学びを深めることができました。今年のテーマは4月のEC会議にて、熱い心をもってボランティア活動に参加するきっかけをつかんでもらおうと「BURNING HEARTS~他人事ではなく自分事に~」と決めました。開会式のオープニングでは、今までの活動写真をもとに作られたスライドショーを放映し、これから始まる三日間への期待が高まり、その後の基調講

演では興梠先生からテーマである、「他人事を自分事」とするには、自分の集団とは別の集団にいる人と「つながる」ことによってはじめて実現する「つながる、つなぐ、わかちあう」という話をしていただきました。その後、参加者全員でバースデーラインを行い、しゃべらずに感覚だけでバースデーラインを作りました。本当の誕生日を確かめあうときに、沢山の会話と笑顔が生まれ、緊張が解けたような温かい雰囲気になりました。また、ダイヤモンドランキングでボランティアの課題を並べ、お互いに共有し合い意見交換をして、これから始まる三日間の活動に繋がる良いスタートを切ることができました。







第1分科会「教育」参加者21人

(報告) ミッション シャネール (EC) 坂本 愛美、橋本 心人、渡辺 美羽(アドバイザー)高校教諭兼ボラキャン〇B 大和 賢佑氏、事務局 八木 浩光氏

私たちの分科会では、幸せになるための学校「みちしるべ」をテーマに日本の教育だけでなく海外の教育に目を向けることで色々な教育の在り方を知り、今後の日本の教育をもっと良い方向に導くための活動をしました。

一日目は自己紹介をして、二つの真実と一つの嘘というアイスブレイクをしました。その後、この分科会を作った動機と目的を説明し、「教育って何のためにあるの?」について話しました。また、「今の日本の教育で感じること」をひとつ紙に書いてもらい、発表してもらいました。それぞれのテーマで一人一人が考えを持ち、共有することで考えさせる範囲が広くなりました。また、参加者たちに何故この分科会を選んだのか理由を聞きました。一人一人しっかりした理由を持ち参加してくれたので、それを聞いてこの三日間を頑張りたいと思いました。最後に時間が少し余ったので「教育」についてのフルーツバスケットをしました。お題を考えるのが難しかったですが参加者の皆さんが楽しく盛り上がってくれました。二日目の午前は、昨日考えてもらった「今の日本の教育で感じること」について4つのグループに分かれ、ウェビングマップを作りました。また、日本と海外の教育の区別をするために実際に模擬授業をしました。

日本の授業では数学Ⅰの授業を、海外の授業はフィンランドの

教育を中心に、いくつかの問題用紙を配付し、チャレンジしてもらいました。その後、意見交換を行い、日本と海外の教育の良い所、悪い所、相違点、共通点について話し合いました。

午後からは、理想の学校について考えてもらい、教育と教育環境の二つのグループに分け話し合い、発表しました。例えば週2回、午後の授業を総合探求としてみてはどうか、また、仮眠室を作った方が良いのではないかなど面白い意見を考えてくれました。報告書作りでは参加者が協力しながらまとめを行いました。

三日目の全体報告ではこの二日間で学んだことを他の参加者に自分たちの言葉で発表し、この分科会を通して一人一人がこれから目標にしたものを伝えたので、良い締めくくりで終わることができました。

この三日間、参加者の皆さんと交流を深めながら、海外の教育についてもっと興味を持たせることができたのではないかと思います。これからの日本の教育をより良くし、次世代の子供たちに楽しく教育を受けさせ、様々なものを自分たちから興味を持たせたいと思います。ECとして皆さんが楽しく過ごせてとてもうれしく思います。参加してくれた皆さんをはじめ、事務局、アドバイザー、OB, OGの方々、春から長い間サポートをして頂き、本当にありがとうございました。







(報告&EC) 市川 青空 平川 晄芭 (アドバイザー) EPO 九州 勝家 伸男氏

私たちは「地球環境を身近な存在として捉えるきっかけを提供すること」を目標に、分科会の内容を企画・実施しました。一日目、自己紹介の後、自然の魅力を伝えるフォトコンテストを開催しました。実際に外に出て写真を撮影することで、参加者同士の交流を深めると同時に、阿蘇の雄大な自然を肌で感じていただく機会となりました。広大な草原や牛の放牧など、阿蘇ならではの風景に心躍らせ、撮影を楽しんでいる参加者の姿が印象的でした。しかし、私たちECは緊張のあまり、説明が早口になってしまい、十分に内容を伝えきれなかったと反省しています。

二日目は、アイスブレイクとして「THE SDGs アクションカードゲームクロス」を行いました。これは、SDGsの17の目標に沿ったトレードオフ(相反するジレンマ)を解消するアイデアを考えるゲームです。同じトレードオフに対して、様々なユニークなアイデアが交わることで新たな視点が生まれ、参加者同士の意見交換を通じてSDGsへの理解を深めました。その後、アドバイザーの勝家さんからエコツーリズムの講義が行われ、参加者は観光と環境の関係、そして熊本の自然や環境について深く学ぶことができました。多くの参加者が熱心にメモを取りながら講義に耳を傾けていました。続いて三日目の全体発表会に向けて、熊本エコツアー企画のアイデア出しを行いました。最初は戸惑う様子も

見られましたが、観光パンフレットを広げながら「ここに行ったことがある!」「ここのソフトクリームが美味しい!」など、各々の経験を交えた活発な意見交換が行われました。午後は、各班で資料作成に取り掛かりました。進捗に差はありましたが、手の空いている参加者が他の班を積極的にサポートする姿も見られ、全員が無事に資料を完成させました。最後に全体発表会の予行練習を行い、参加者全員がECやアドバイザーからの質問やアドバイスにしっかりと対応していました。一日目の反省を踏まえ、ゆっくりと丁寧に伝えることを心掛けて進行できたため、円滑に進めることができました。

三日目の全体発表会では、参加者一人一人が自分の言葉で考案した熊本のエコツアーを発表しました。前日の予行練習の成果もあり、質問にもスムーズに対応できました。特に、台湾からのインターン生は夜遅くまで発表の練習を行っており、全員が熱心かつ楽しそうに取り組んでくれたことはECとして非常に嬉しく思っています。

この三日間は、ECにとっても参加者にとっても、実り多く有意義な時間であったと確信しています。また、参加者の皆さんには、ここで得た学びを大切にし、自然を慈しむ心を持ち続け、周りの人にもその思いを伝えていってほしいと願っています。最後に、環境分科会を支えてくださった全ての方々に、心から感謝申し上げます。







第3分科会 [医療] 参加者15人

(報告者) 佐田 愛実、佐伯 佳音 (EC) 河野 真奈、永野 真実、松本 尚大 (アドバイザー) JICA 九州 木下 俊和氏

私たちは地域医療と世界の医療制度の違いについて話し合い ました。一日目は、自己紹介をしてアイスブレイクをしました。 一人一人と話さなくてはならないことで、みんなと仲を深めるこ とができたと思います。その後、医療についてウェビング(キー ワードになる言葉からイメージする単語をつなげていくこと)を してもらい、医療制度での課題や解決策などを自分たちだけで考 えられるだけ出しました。また、日本や世界の医療の現状につい て紹介し、日本の医療制度の課題について話しました。また、 世界の医療は、主に保険制度について話し、その制度について ウェビングをしてもらい、最初にやった日本のウェビングに付け 加え各班でたくさんの意見を出しました。二日目の午前中はワー ドウルフを行い、参加者同士でたくさん会話したことでより仲が 深まったと思います。次にECからカンボジアの医療制度につい て紹介し、カンボジアでは医療制度が整っていないことで、まと もに治療を受けられない現実を知りました。また、アドバイザー の木下さんから海外の医療制度とSDGsの話を聞き、最近よく聞 くSDGsに関しては知らない方が多く、まだまだたくさん知りたい と思いました。

午後からは、医療格差、医療従事者の不足、社会保障について、 現在の課題を解決するためにはどうすれば良いのかを3班に分かれてワールドカフェ形式で話し合いました。ワールドカフェとは、 特定のテーマについて人を変えてウェビングし、意見を深めるとい うものです。会話が止まった時にはECやアドバイザーから助言す ることで、広い視野を持ち更に考えを深めることが出来ていました。 最終的にはそれぞれの班でたくさんの解決策を出すことが出来ま した。今の医療の現状を知り、これからの日本や世界をより良くす ることについて深く考えることが出来た貴重な時間だったと思いま す。最後は、この分科会の感想を参加者に書いてもらいました。 日本や世界の医療について知らなかったことがたくさん知れて良 かったというコメントや、様々な目線から見ることが出来た、楽し く学ぶことが出来たなどと言ったたくさんの素敵な感想が集まりま した。アイスブレイクでのゲームやプレゼンテーション、ワールド カフェなどたくさんのことを企画することが出来て良かったと思っ た瞬間でした。反省点としては活動の中で自分がしなければいけ ないことを理解できていない参加者が若干名いたことです。ECの 説明不足だった部分があったと反省していますが、他は参加者が より意見を出しやすい雰囲気作りを率先して行うことが出来ていた と感じています。今回、医療の問題点や解決策についてたくさん 考えましたが、今の私たちがこの現状を解決して変えていくのはと ても難しいことだと思います。ですが、この現状を知り医療に対す る意識が変わる人が少しでも増えたら嬉しいなと思いました。

最後になりましたが、私たちの分科会に参加していただいた方々、 そして私たちをずっと支えてくださったアドバイザーの方々を始め、 協力していただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。







第4分科会「多文化共生」参加者24人

(報告) 勇 佳奈恵、山□ 寧々花 (EC) 遠藤 詩歩、高 君儀、史 康平、田村 陽菜、中島 弥子、松尾 望加、毛利 本仏(アドバイザー) NPO 法人 外国 から来た子ども支援ネットくまもと 大住 葉子氏、竹村 朋子氏

私たちの分科会は、「聞いて、見て、考えよう」をテーマに活動しました。コロナ禍が過ぎ、ますます外国人の方々と接する場面が増える中で、私たちにできることはないかと考え、この分科会を立ち上げました。

一日目、まず自己紹介も兼ねて、自分が好きなものに一つだけ嘘を混ぜて、その嘘を当てるというレクリエーションをしました。これは、自分が普段の生活で先入観を持っていることを自覚してもらうためのレクリエーションです。次に、多文化共生と国際交流の違いについてどのように考えているのか、ECも話し合いに参加しながら意見を出してもらいました。この質問は難しかったと思いますが、参加者から積極的にたくさんの意見をもらえました。その後、留学や海外移住経験のあるECに、現地で困ったことなどの体験談を発表してもらいました。

二日目の午前は、中国にルーツを持つECに中国語の色を教えてもらい、中国語で発音した色を触るゲームを行いました。また、参加者に中国語の問題を出すなど異文化に触れる体験をしてもらい、楽しんでもらえたようで嬉しかったです。そして体験談として、外国にルーツを持つEC3人に日本で困った事を話してもらい、その後、中国語で模擬授業を行いました。言葉が分からない状態での授業の大変さを実感でき、とても良い経験になりました。午後のレクリエーションでは、より多文化に触れてもらおうと、中国語の単語を用いた伝言ゲームを行いました。

また、ホットポテトゲームという音楽が流れる間、ボールを回していくというアメリカで行われているレクリエーションも行いました。ECの活動では、多文化共生の課題について歴史、国際の面から調べて考えた事を発表しました。また、日本語をわかりやすく伝える「やさしい日本語」というものを教えてもらい、日常会話や災害時などでも使われている文章で伝える練習をしました。更に、最初に考えた多文化共生とは何かについて再び考えてもらい、最初よりも具体的な意見が紙に入らないほど沢山出ました。最初に考えた時との考え方がどのように変わったかをECや参加者全員で発表し、自分の考えを深めて共有することができて良かったです。

最後に、私たちの最終目標であった多文化共生を実現するために何ができるかについて考えてもらいました。それぞれが出した意見を今からできること、将来できることについて分類でとに分け、参加者から今からできることは実践してみたいと言っていたのでこの分科会を企画して良かったと感じました。アドバイザーの方々には、準備期間から本番を通して、様々なサポートをしていただきました。そして参加者の皆さまには進行がバタついている時にも積極的に話し合いをして、意見を出してくださったことにとても感謝しています。参加者の皆さま、アドバイザーの皆さま、本当にありがとうございました。







第5分科会「国際協力」参加者16人

(報告者) 宮城 里奈、田代 花 (EC) 荒木 萠薫 (アドバイザー) JICA デスク熊本 尾上 香織

私たちの分科会では"広げよう、共に創る助け合いの輪"のスローガンのもと、貧困・フェアトレード・SDGsを主な議題として、私たち高校生にできることは何か、フェアトレードがどんな役割を果たしているかをゲームやディスカッションを通して学びました。一日目はまず自己紹介・他己紹介ゲームをした後に以心伝心ゲームを行い、仲が深まりました。次に貧困のイメージをウェビングで書き出し、貧困問題を解決するために自分たちが思いつく解決策について話し合いました。様々な貧困問題から起こる負の連鎖や、企業が行なっている貧困解決のための活動をスライドで説明しました。日本の貧困問題の現状にも触れ、日本では相対的貧困にあたる人が6人に1人もいることを知りました。参加者たちはしっかり話を聞いてくれて、とてもスムーズに進めることができました。

二日目の最初はマシュマロチャレンジをしました。班対抗で競い合い、とても盛り上がりました。次に、普段の買い物での自分の消費行動を振り返るダイヤモンドランキングをした後、フェアトレードについて説明し、国際フェアトレード認証ラベルについて知ってもらうために実際にそのラベルが表示されているフェアトレード産品を試食、試飲しました。続けて、Girls Be Ambitiousの番匠麻樹さんより、フィリピンの貧困現状や番匠さんの今までの活動をオンラインで詳しく伺うことができ、とても貴重な機会でした。参加者たちも質問を出してくれて、十分に内容を理解してくれたと思います。その後、普段、買い物する時とフェアトレード産品を買う時でそれぞれ何を重要視するかを比較するために再度ダイヤモンドランキングをしました。

ダイヤモンドランキングを通して自分の消費行動の意識がどう変わったかを振り返りました。午後からは、貿易ゲームを行い世界の貿易の現状についてゲームを通して知ってもらいました。ECが少し助言すると、参加者たちは上手く交渉し、どうしたら自分たちのお金が増えるか各班で話し合っていました。貿易ゲームを通して「世界経済の動きを知り、そこに存在する様々な問題について学べた」と感じていた参加者が多く、EC自身も貿易ゲームを企画して良かったです。

最後に、全体報告会に向けてこの分科会で学んだことや自分が実践したい国際協力についてカードに書いてもらい、『自分にできる国際協力』というお題で花束を作成しました。しかし、全体報告会で使う原稿・模造紙の作成が時間内で終わらず、結果的にECだけで仕上げることになりました。参加者と協力して全体報告会の準備ができなかったことが心残りです。全体報告会では、他の分科会の人からの質問に対して、正しい回答ができない人もいて、ECの説明不足だったことを反省しました。

最後に、この分科会を終えて国際協力について学んだことや世界の現状を、知識として周りの人に伝えるだけでなく、よりたくさんの人の意識が変わっていくことに大きな意味があると思いました。活動中で、班によっては意見が出なかったり、また、内容を理解できなかったりする参加者がいましたが、想定通りにいかなかったときはECで話し合い、どうしたら参加者に伝わりやすいかを柔軟に考え、行動することができたと思います。私たちの分科会に参加してくださった参加者を始め、協力してくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。







第6分科会「子どもの権利」参加者12人

(報告者) 秋吉 美宏、島津 陽奈 (EC) 一番ケ瀬 遥 (アドバイザー) Free the children Japan 熊本グループ代表 岩坂 省吾

私たちの分科会は、参加者に「子どもたちが取り残されない 社会にするためには私たちはどうしたらよいのか」を考え行動し てもらうことを目標に活動しました。一日目はアイスブレイクとして、 しりとり自己紹介と共通点探しゲームを行い、「児童労働」と「子 どもの権利条約」について触れました。「児童労働」では、実際 に身近に感じてもらうために、「児童労働カードゲーム」を行い、 児童労働とは何か、何故起こってしまうのかを学びました。「子ど もの権利条約」では子どもの権利条約43の条文の中から自分が 良いと思った条文にシールを貼り、なぜそれに興味を持ったかを 意見交換しました。参加者から第8条の「君は世界で特別な存在 だ」という条文が素敵や、知らない条文が沢山あったなどの回 答が出ました。そしてヤングケアラーのケースストーリーを基に どの条文が保障されていないか、またどの条文を使うと幸せにな れるかなど、条約条文に触れてもらいました。一日目の最後はウェ ビングを使って、子どもはどういう存在なのかということを改めて 考えてもらいました。

二日目は、虐待とヤングケアラーについて考えました。虐待では、アニメ内の虐待シーンを取り上げ、4つの虐待の種類のどれに当てはまるかをクイズにし、また、その定義、種類、具体的な事例などをお話しました。その後「虐待問題を解決するには」というお題で、ワールドカフェを用いて参加者に意見を出してもら

いました。そしてヤングケアラーでは定義、データ、種類をクイ ズにして考えてもらい、ワークシートを使って「お手伝い」と「ヤ ングケアラー」の違いについて話し合いました。また「ヤングケ アラー問題を解決するには」というお題で、ワールドカフェを用 いて意見を出してもらい、ワールドカフェで出た2つの問題を解 決するための意見を比べて両方とも表面化しにくい問題であるこ とに気づきました。午後は「子どもが守られない世界」というお 題でウェビングを行い、飢餓、子ども兵、学校がないなど沢山の 意見が出ました。そして関連している意見を分類して、どうした ら問題を解決できるのかを話し合ってもらいました。その後、ウェ ビングで出た意見を逆にすると問題を解決することができるとい うネタバラシをすると参加者たちはとても感心していました。最 後に子どもたちがより自分らしく生きることができる「子どものウェ ルビーイング」についてお話し、「My Way card」という参加者 全員に子どもにとってのウェルビーイングを実現するために高校 生としてできることを宣言しました。

三日目の全体報告会では、みんな自分たちの学んだことを自分の言葉で参加者に伝えました。この分科会を通して児童虐待、ヤングケアラーの現状を知ってもらい、「自分ごととして捉える」ということを参加者の皆さんに続けていってもらいたいです。







全体交流会「ソフトバレーボール」

(報告者) 高君儀、史康平、毛利本仏

一日目の夕方、参加者全員で楽しめるようにソフトバレー大会 ※を体育館で行いました。この大会では4つのバトミントン用コートを使い、ECを含めた100余名の中から男女混成6人の16チームを編成し、残りのECが審判や進行を担いました。できるだけルールを簡素化し、アタック無し、ブロック無し、必ず3回目に相手コートへ返す、5分間で得点が多かった方が勝ち、同点なら一発ジャンケンで勝敗を決めることにしました。そして8つのリーグ戦を行い、各リーグ上位2チームがトーナメント戦へ進出するというものです。ゲームは白熱を帯び、時には大歓声も起きるなどみんな一生懸命頑張りました。決勝戦はフラボールというおにぎりのような楕円形のボールでゲームを行い、ソフトバレーとは違ったボールの動きに戸惑いながらも多くの参加者に楽しんでもらえたことと思います。これから外国にルーツを持つECたちにこの大会の模様を報告してもらいます。

・多文化共生や他の分科会の人とバレーボールで交流しました。 みんなはとても本気でやっていたり、とても楽しんでいたり、交流 したりなど全員が頑張っていました。僕はみんなをサポートしたり、 誘導したりするなどスムーズに対応していましたが、ところどころ忘 れていて、次の行動に移せないところがありました。それでもEC のみんなが臨機応変に進めてくれ、順調に楽しむことができました。

・今回のボラキャンのバレーボールに関しては、ほぼ何も聞いていなかったのでECが一人ずつチームを持たないといけないということは当日初めて知りました。これを聞いた瞬間にびつくりして何の準備もしてなかったのでうまくできるか心配しました。やはり、グダグダになりあまり役割を果たせなかったけど、みんながちゃんとついてきてくれたので安心しました、来年もまたECとして参加するつもりなので、こういうことが起こらないように何事も事前に準備しておきたいなと思いました。

・今回のソフトバレーのルールは普通のバレーボールのルールとは少し異なりアタック無し、ブロック無し、ジャンピングアタック無し、3回パスです。最初はフラバールバレーボールのつもりだったが、そのボールが4つ準備できなかったからソフトバレーに変わりました。チームは16チームに分かれて、リーグ戦で戦いました。最後は勝ち上がった8チームでトーナメント戦をやって、1位、2位、3位、4位を決めました。

※全体交流会は当初キャンプファイヤーやナイトウォークを予定していましたが、安全管理上の人員確保が困難となったため断念し、ソフトバレーに変更しました。 キャンプファイヤーを心待ちにしていた皆様に心よりお詫び申し上げます。







未来職道は二日目の午後7時から9時まで2時間、国際交流や 国際協力、多文化共生まちづくりなどの活動をしている団体と直 接対話ができ、自分たちが将来、進みたい道を探す一助となる 企画です。今回は「独立行政法人国際協力機構(JICA)」、

「NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと」、「EPO九州」、「NPO法人東アジア共生文化センター」、「Free The Children Japan 熊本」、「一般社団法人日本ワーキングホリデー協会」、「日本ボランティア学習協会」、「高校生平和大使」、

「TEDxKumamoto」、「国際ボランティアワークキャンプ実行委員会」の10団体に出展していただきました。始めに各団体から活動内容を紹介していただき、それぞれ興味がある団体のブースへ赴き、1クール15分で話を聞いてまわり5、6団体から話を

聞くことができました。

私は、国際ボランティアワークキャンプ実行委員会のブースを担当しており、実行委員としての活動内容やECとしてのやりがい、また、来年は20回という節目の年にもあたるので次期ボラキャンEC募集に向けて全力でECの魅力を伝えました。参加者の中には説明中に質問する人や説明が終わった後に質問する人もいました。このプログラムを通して、参加者は様々な団体の活動に興味を持ち、今後、自分がやりたいことへの道筋になったと思います。ここで学んだことを無駄にせず将来に繋げられたらなと思います。

今回、<mark>私たちの</mark>ために阿蘇まで来ていただいた団体の皆様、 本当にありがとうございました。







全体報告会

全体報告会は、二日目までの分科会の内容をまとめたものを 広用紙に書き出し、三日目の午前中に行います。今回は参加者 全員が発表できるように各分科会の参加者をA~Fの6グループ に分け、それぞれの分科会から集まったA~Fに分けられたグループを作り、分科会のブースを巡回し、自分のブースに来た参 加者が自分の取り組みを発表する形式にしました。質疑応答を含む10分間で、このキャンプで学んだことや感想、伝えたいことを 発表しました。参加者は事前に原稿を書いてもらい、どのような話をすれば良いのかECと相談し、報告会の準備を行っていました。本番では、分科会を通してみんなで意見を出し合ったもの

報告者 中島 弥子

多くの参加者は発表する際、とても生き生きしているように見えて嬉しかったですが、中には活動したことをただそのまま述べるだけであった分科会もあり、折角、活動を通して考えた自分の考えやその変遷を聞く事ができなかったとこもあったので、そこを伝えられるようにすれば良かったかなと思いました。

私はブースを回るごとに新たな学びを得ることができました。 また、殆どの分科会は時間内に発表と質疑応答を終えることができていました。

全体報告会の成功へ向けて準備を手伝って下さったボラキャン OG・OBの皆さん、事務局の皆さん、各分科会のアドバイザーの皆さん、本当にありがとうございました。



や学んだことを聞く人に分かりやすく伝えていました。











最後を締めくくる講演会として近畿大学の西尾雄志先生より~他人事ではなく自分でとに~をテーマにクロージング講演をしていただきました。講演中の例え話として、ある時5,000円のケーキを持つて道を歩いていると、命の危機が迫った赤ちゃんを目の前にした場合、ケーキを投げ捨ててでも赤ちゃんを救う人が殆どだと思いますが、では、遠い異国の地で飢餓に苦しんでいる子どもたちのためにその5,000円を寄付しますか?ケーキと同じ金額でも、目の前の事象と遠くの事象の場合、多くの人は目の前の事象に対しては行動できるが、そうでない場合は行動が鈍くなる人が多いと思いますが、それは「なんで?」というキーワードを使って、みんなに問いかけました。他にも「なんで?」と考えさせられる事例を紹介していただきました。このキーワードをもとに講演内容を深く理解することができました。

次に歴代ボラキャンの数々の写真をボラキャンのテーマ曲であ

る「キセキの歌」をBGMにした動画を視聴しました。ボラキャンが19回も続いているのを改めて実感することができ、さらに歴史を感じることのできる動画でした。最後にECの市川さんの閉会宣言を持って、「第19回国際ボランティアワークキャンプin ASO」は幕を閉じました。皆さんはボラキャンに参加するにあたってたくさんの方々に支えられたと思います。まずは家から送り出してくれた保護者、ボラキャンの存在を教えてくれた友達や先生、当日までボラキャンの運営を考えて下さった事務局の方々、分科会の運営を担ったECやアドバイザーの方々の支えを忘れないでほしいです。また1、2年生は来年、再来年には多くの人を支える側に回ってほしいと思います!今回、参加した方々はこのボラキャンに参加をしたという良い経験を学校や普段の生活に繋げていってくれると幸いです。







報告者 松本 尚大

阿蘇観光

私たちは三日間全ての活動を終え、阿蘇の観光名所である阿蘇神社を訪れました。この期間を通してたくさんの仲間と仲良くなれた気がします。阿蘇神社では道の至る所にカエルの置物があり、それぞれ金運や職業運など色々な運を分けてくれると信じられています。

僕は金運のカエルに将来お金持ちになりたいとお願いしましたので僕はお金持ち確定でしょう。帰りに友達と食べたソフトクリームはとても美味しかったです。たくさんの経験ができた三日間でした。ぜひ来年も参加したいです。







実行委員長からのメッセージ

報告者 一番ケ瀬 遥

皆さんこんにちは。第19回国際ボランディアワークキャンプ実行委員長の一番ケ瀬遥です。長いようで短かったボラキャンを終えて、まずは参加者の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。県内外多くの高校生・留学生の方々に恵まれ、2泊3日という期間を阿蘇青少年の家に集い、共に学び合い高め合えたことは一種のキセキだと思います。初日はみんな緊張した様子でしたが、二日目、三日目は笑顔が増えている様子が伺えました。参加者からも新しい友達が出来たという言葉や貴重な学びになったという嬉しい言葉を沢山いただき、こちらも嬉しい気持ちでいっぱいです。皆さんの笑顔こそが、私たちをEC たらしめてくれました。

私たち EC は 昨年12 月中旬から徐々に集まり始め、1 月より活動を開始しました。全員が学校や部活動、自身のスケジュールで忙しい中でほぼ毎週 EC 会議を開き、意見を出し合い、その中で私たち自身成長することができました。大変なことも沢山経験してきましたが、その分の達成感を伴いますし、何よりボラキャン

本大会を迎え、参加者の皆さんの笑顔を見て私はこのために頑張って来たのだと実感しました。

高校生が主体となったこのボラキャンは来年で20回を迎えます。無事にボラキャンの歴史を紡ぎ、次年度へとバトンを渡せることをとても嬉しく思います。改めて、参加者の皆さん、ECのみんな、アドバイザーの方々、事務局の皆さん、今回のボラキャンに携わっていただいた全ての方々に厚く御礼を申し上げます。



第19回 国際ボランティアワークキャンプ in ASO

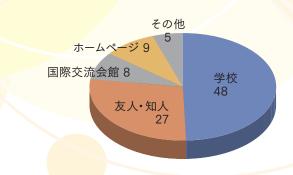
回答数 97

(対象者 106人) 91.5%

Q2 基調講演はどうでしたか



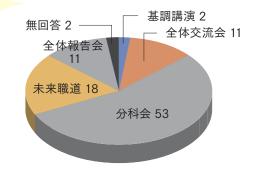
Q1 ボラキャンをどこで知りましたか



○3 全体交流会はどうでしたか



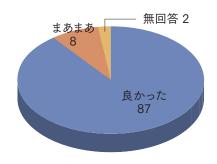
○4 一番印象に残った活動は何ですか



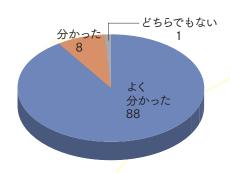
Q5 実行委員の対応はどうでしたか



Q6 未来職道はどうでしたか



○7 分科会活動はどうでしたか



Q8 来年のボラキャンでECとして参加したいですか

23人

感想

同類感想

- 勉強になった、良い経験になった ………50 楽しかった、有意義な時間だった……………43 他校の人と交流できた、新しい友達ができた ………9 •また参加したい、今度はECとして参加したい ………8
- ・学年に関係なく仲を深めることが出来た。初めてのことばか りで慣れないことも多々あったけどとても楽しかったです。
- ・知らない人と協力して意見をまとめるのが面白かったです。
- たくさんの刺激を受け学習意欲が高まりました。楽しかった です、ありがとうございました。
- ・初めてECとしてボラキャンに参加して最初のころはうまくい かないこともあったけど最後は成功できて良かったです。来 年ももし参加出来たら頑張りたいです。
- ・ECとして参加したけど新たに学ぶこともたくさんで充実した 3日間でした。至らない所も多くあったと思いますが、参加 者全員が新しい学びを見つけ今後に活きるボラキャンである と嬉しく思います。
- ・国際関係について興味がある人たちと一緒に勉強できて良 かったです。ECの皆さんありがとうございました。また、新 しい友達が出来たので良かったです。
- ・初めての参加だったのですがとても楽しく充実したものにな りました。特に分科会では他の人たちと協力して話し合うこ との大切さを学ぶことが出来ました。レクリエーションをのバ レーもとても楽しかったです。
- ・ボランティアキャンプを通してここでしか出会えない友人や 経験が出来たことがとても良かったと思いました。自分にも 新しい知識を得ることが出来たのでこれからこの知識を活か したいと思います。
- ・私が参加した分科会の多文化共生という言葉への解釈や 知識が増えたのを実感することが出来たのでとても楽しかっ たです。ボラキャンのテーマにもあるように他人事ではなく自 分事にすることにもっと意識していこうと思いました。
- ・特に未来職道が印象的でした。様々な活動をしている団体 の方々と直接お話でき、自分の視野が広がるとともに、こう いう活動をしてみたい!といった自分の夢も広がりました。今 回、本当にECの方々のサポートのおかげで充実した3日間 を過ごすことが出来ました。来年は自分がECとして参加す る学生をサポートしたいなと思いました。
- ・ECとして今まで計画してきて私たちが伝えたいことがうまく 伝わるか、一般の方々が楽しく参加してしてくれるかなどたく さんの不安があったけど分科会も交流会も予定していたこと 以上のことができたので安心しました。もっとできると思って いたこともあったので周りをしっかり見て自分が一番必要だ と思うに動けるようにしていきたいです。
- ・環境分科会に参加してくれた人が本当に学びの多い充実し たキャンプだったとわざわざ伝えてくれました。ECとして不安 なことだらけだったけれど一人でも誰かを動機づけることが できて本当に嬉しかったし大きなやりがいを得られました。
- ・今回のボラキャンはとても良かったと思いました。特に全体交 流会で多くの人と友達になりました。たま、多文化共生分科 会のみんなの話を聞いて自分の考えはまだ浅いなと思いまし た。もっと多くの活動に参加して自分の視野を広げたいです。
- ・初めてこのボランティアに参加して自分にとって初めての経 験ばかりでとても新鮮で楽しかったです。泊まり込みで何か を考えるという活動を通して自分の視野が広がりました。高 校生がこのような活動をしているのを知ったので凄いと思っ たし、私もこのような活動を1から作ってみたいと思いまし た。ECさんのサポートですごく良い経験になりました。

- ・高校生が主体となって取り組んでいて素晴らしいと思いまし た、カッコよかったです。楽しかったです。また来たいです。 勉強になりました、もっとボランティアに参加したいと思える ようになりました。2泊3日ありがとうございました。
- 初めてボラキャンに参加して分科会毎で話し合ったりレクリ エーションをしたり物事について考えることで自分とは違う意 見を持った人と交流することで新しいことが分かったりしてと ても楽しかったです。また、報告会で他の分科会でどんなこ とをしているか調べ、どんな状況にあるかを知ることができま した。新しい友達が出来て自分の心に残るボラキャンになっ たのでまた参加したいです。
- ・6つの分科会の発表を通して入りいろな考え方を学ぶことが できて、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。医 療分科会での活動を通して、より深く日本や世界の医療に ついて学ぶことができ未来のビジョンがより鮮明になったしと ても楽しく自分の中の引き出しを増やすことが出来ました。 たくさんの方々との交流で高校が違う人とも友達になること ができて親交を深めることが出来ました。この縁がこれから 何かにつながるといいなと思いました。
- ・3日間を通してとても楽しく参加できて良かったと思いまし た。特に私は第一分科会の教育の活動をしたのですが、自 分と同世代の人の教育に対する意見や改善点など話し合う 経験は今までしたことがなく、将来につながる貴重な経験 だったと思いました。ECについて未だ考えがまとまっていな いのですが是非参加したいと思いました。
- ・家を出る時は緊張しかなくて知人もいないし一人になったら どうしようと思っていたけどECの人がすごく優しくて安心でき ました。分科会を通してどれだけECやスタッフの方々が準 備してくださっていたのかを実感しすごく有難いなと感じまし た。今回参加したことで新たに参加してみたいボランティア が見つかったり、今まで知らなかったことに気付けたりする などボラキャンに参加して良いことしかなかったです。来年は 私もECの一員として参加してみたいです。
- 普段ならあまり考えないような問題について沢山考え、さら に国際問題を解決したいという思いが強まりました。貿易を 先進国と途上国との間で平等なものにするために私も自分に 出来る国際協力をしてみようと思いました。今回は国際協力 の分科会に参加したけど次は子どもの権利や戦争、紛争に ついての分科会に参加したいと思いました。全体交流会も 全く知らない人と協力して楽しめたし、あまり不便な思いはし なかったので良かったです。すごく貴重でためになる経験が 出来ました、楽しかったです。ありがとうございました。

- ●もう少し生徒同士で 議論する場が欲しかった。
- ●当日のスケジュールを詳しく知らせて欲しかった。ご飯と風呂がずっ と後半だったのが嫌だった(前半組と後半組を公平に入れ替えて 欲しかった)。全体報告会で自分も発表しないといけないことを前 日に知りすごく困っているひとが何人かいました。··········· 2
- 実行委員さんの全体の回し方がグダグダだったから少し困った。 ECの指示が一部の参加者に行き届いていなかった。…… 2
- ●キャンプファイヤーとナイトハイクをしたかったです。とても楽しみに していました。 4

※その他の感想や意見はホームページに掲載しています。 詳しくはQRコードをスキャンしてください。



第19回ボラキャン実行委員(EC) ※高等学校、敬称略

≪委員長≫一番ヶ瀬遥(必由館)

- 《副委員長》 荒木 萠薫(必由館) 勇 佳奈恵(必由館) 橋本 心人(必由館) 山口 寧々花(必由館)
- 《書記》平川 晄芭(熊本信愛女学院) 松尾 望加(熊本信愛女学院) 島津 陽奈(九州学院)
- ≪デザイン≫ チラシ・ポスター・ロゴ 市川 青空(文徳) プログラム表紙 山口 寧々花(必由館)

秋吉 美宏(第二) 遠藤 詩歩(真和) 河野 真奈(九州学院) 高 君儀(熊本北) 坂本 愛美(必由舘) 佐伯 佳音(熊本マリスト学園) 佐田 愛実(熊本学園大学付属) 史 康平(菊池) 田代 花(東稜) 田村 陽菜(熊本信愛女学院) 中島 弥子(宇土) 永野 真実(真和) 松本 尚大(必由館) ミッション シャネール(熊本信愛女学院) 宮城 里奈(熊本商業) 毛利 本仏(鹿本農業) 渡辺 美羽(熊本商業)

≪構成団体≫

熊本ユネスコ協会、税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト、一般社団法人ドリーム・ラボ

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

≪共催·協力団体≫

独立行政法人国際協力機構(JICA)九州センター 日本ボランティア学習協会

≪後援≫

熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社





募集チラシ



本大会ロゴマーク



大会プログラム





EC用 Tシャツ

《発行:ボラキャン事務局》

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

(熊本市国際交流会館) 熊本市中央区花畑町4番18号 TEL: 096-359-2121 FAX: 096-359-5783

MAIL: pj-info@kumamoto-if.or.jp

